

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



第29回国際武道文化セミナー



公益財団法人日本武道館
武道学園創立50周年記念



第29回国際武道文化セミナー



テーマ「武道への想い」

4月上旬並みの穏やかな気候となった3月3日～5日、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで第29回国際武道文化セミナー（主催Ⅱ日本武道館）が国際武道大学、日本武道学会の協力を得て開催された。

本年は「武道への想い」をメインテーマとして開催。

初日は奈藏稔久特別講師の講義「空手道——武道としての空手とオリンピックスポーツとしての空手」、2日目は、受講生4名による参加者発表「武道への想い」、その後、腹巻宏一特別講師の講義「武道への想い」が行われ、各々が武道への想いを余すことなく発表した。

最終日は、木村恭子講師の古武道講義・演武及び体験会「天道流雑刀術」、主任講師・講師による現代武道の模範演武と実技研修、体験武道も行われ、充実した3日間となった。

参加者数は、日本在住の外国人武道修行者68名、日本人武道修行者18名の計86名。初参加が37名おり、無雙直傳英信流居合術の日本人武道修行者も多く参加し、多彩な顔ぶれとなった。

初日（3月3日）

午後2時より、第一研修室にて開講式、2時30分より、奈藏稔久特別講師（世界空手連盟事務総長）による「空手道——武道としての空手とオリンピックスポーツとしての空手」の講義となった。講義では、武道としての空手道とオリンピックスポーツとしての空手を、空手修行歴58年、WKF事務総長という立場から見つめ、両者の理念、実態が今日の空手形成にいかに関わったかを考察。WKFの目指す、武道もスポーツも包括したオリンピック空手の概念について説明した（概要別掲）。



奈藏稔久特別講師

「空手道」——武道としての空手と オリンピックックスポーツとしての空手」 講義概要



はじめに

空手は、2020年東京オリンピックの追加種目としてリオにおける国際オリンピック委員会（IOC）総会で承認された。2016年8月のことであった。IOCによるオリンピック改革案「アジェンダ2020」に基づく「開催都市による追加種目提案」により、2015年9月、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（TOCOG）からIOCに提案され、その後の審議を経て決定されたものである。

1999年、世界空手連盟（WKF）は世界の空手を統括する団体としてIOCに承認された。爾後オリンピック種目となることを規約上の

目的に掲げ、種目選定ショートリストに残ること3度、ことごとくその厚い壁に阻まれてきたが、ついにその夢は実現した。世界中の空手家にとり、2015、2016年は歴史に残る特筆すべき年となった。

一方、ここにご参集の多くの方々はその「定義」「捉え方」に多少の違いはあっても、日本の武道というものの、空手というものに対する魅力を強烈に感じているに違いないし、おそらく母国のスポーツや身体文化に見られない伝統、所作を包含した武道というものに惹かれて、それを体験し、その魅力の本質に迫ろうと努力されているに違いない。

オリンピック種目入りが決まって以後、空手関係者、いやむしろ多くの一般の方々から「日本の空手がオリンピックに入ったことは誠に喜ばしい。ただ、空手が武道から単なるスポーツに墮することのないよう頑張つてほしい」という声が多く寄せられている。日本人のみならずWKF

F各国関係者の中にもこの意見に首肯する人は多く、少なくとも正面切つてこれに異議を唱える人を私はほとんど知らない。しかし、この論には根底に「武道」が「スポーツ」に比べて上位の概念であり、より高度な身体文化である、との考え方があ

るように思えてならない。果たしてそうであろうか？

多くの日本人や武道関係者が「スポーツ」の価値を徹底的に掘り下げて理解しようとしないうところにこの声の根本があるのかもしれない。

武道といい、スポーツといつても畢竟、それは人と人とが文明社会において相互理解と定められたルールの中で「時間と空間を制し合う」健全な営み、という点で全く共通している。

本日は、今日の空手を形成した根本をなす「武道空手」、「スポーツ空手」に対する私見を披露し、それらが、いずれも素晴らしい価値ある身体文化であることを確認したい。そして空手は今後、武道・スポーツの優劣、上下という比較論を超えた「オリンピック空手」として発展しうる可能性を秘めていること、それを実

現するために関係者が心すべきこと、努力すべきことなどについて話したい。

武道としての空手

日本武道協議会の規定する武道の定義と理念の主要部分は、以下のとおりである。

「武道は、武士道の伝統に由来する我が国で体系化された武技の修練による心技一如の運動文化で（中略）心技体を一体として鍛え、人格を磨き、道徳心を高め、礼節を尊重する態度を養う、国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。」

この理念は、もともとは戦士、武士の技法、すなわち相手を最も合理的に殺傷し、自らを防御するために考えられた戦闘技法をもとにしながら、この鍛錬を修行、人間形成の道に止揚させたものである。驚嘆すべき身体文化論であり、文明人の叡智といえよう。

例えば、剣道高段者による真剣での日本剣道形の演武に触れる。思わず襟を正さざるを得ない厳肅かつ真剣な雰囲気、水際立った太刀捌き。

観るものは、そこに武技を超越した「武道」の精神性や神秘性を定義や理論でなく感ずることができ。だももし、この演武者が本当に斬り合いを始めたとしたら、その道具が本来持っていた機能をそのままに發揮しようとしたら、それは人間形成の道に最も反する結果を招来する。

博物館に凜としておかれている日本刀の魅力。多くの人間は、それを激しき、冷静さ、厳かさ、さらに絶妙な機能美を備えた美術品として感ずる。しかしもしこの刀剣が生々しく血塗られていたらどうか？

歴史という波に採まれて人間殺傷の武技が身体操作法の修行、鍛錬を通し、礼節を旨とする身体文化に止揚されたところに、武道の魅力がある。武道とは、現代においてはその技法を究極まで実際には用いない、そして、おそらく「一生に一度も実行しないであらう技を、一生を懸けて学ぶもの」というのが私の解釈である。

本題の空手を見てみよう。私の理解する限りにおいて、空手発祥の地である沖縄、さらに源流である中国においてわずか100年前までは「空

手、拳法」そのもの、あるいはその鍛錬は「人格形成の道」という概念では捉えられていないし、少なくとも強調された形跡はない。

1920年代、船越義珍が沖縄から本土に空手を紹介し、大学生を中心に指導、普及に努めた。そして瞬く間に全国に広まった。これ以後の様々な経過の中で柔道、剣道等武道の仲間入りを果たして今日に至る、というのが武道空手の歴史である。比較的、いや極めて短い武道としての歴史といつてよいかもしれない。

船越以降、本土の空手は明らかに沖繩伝承の空手とは異なる日本武道としての道を歩んだ。とりわけ学校体育の一環としての空手の爆発的普及は、礼節を重んずる人間形成の道という精神的、哲学的志向を重んずる歩みと、一方、西洋輸入の球技を中心とする若者の「競技志向」のうねりの中で、ついに自由組手——無予定反応に基づく攻防の応酬による競技、という道を辿ることとなった。1957年、全日本大学空手道選手権大会が開催された。これが世界初の公式組手競技である。それ以前は、己おのれ(指導者)が最も

得意とする戦闘理論、格闘概念・技法(後の流派)をひたすら守り、多くの弟子には、この重要部分は授けず、ごく限定された弟子にのみ伝承してきた空手。それがついに「流派」を超えたスポーツ競技として第一歩を踏み出すこととなったのである。そのルールは直接加撃を禁じ、相手を負傷させたものが負ける、という打撃中心の格闘武術の本質を考えると誠に矛盾したものであった。

しかし今日、この矛盾したルールが性別、年齢を問わず全世界に普及し、ついにオリンピック競技種目になり得た最大の要因であった。打撃力を誇りながらノックアウトを求めない、相手を傷つけない。この矛盾が、剣道が真剣での斬り合いから日本剣道形を制定し、竹刀、防具での競技に「武道文化として止揚した」と同様の歴史的飛躍を、空手にもたらしたのである。

1950年代後半以降、多くの空手指導者、修行者が海を渡り、空手の普及に努めた。第二次大戦終結後間もない時期である。海外、とりわけ欧米での指導、普及は文字通り命懸けであった。その先人の努力の結

果、多くの外国人が空手の虜とりことなった。空手が強烈な打撃技法を誇りながら、ボクシングのようなノックアウトを求めない。「寸止め」で相手を制する、体重別階級もない、極めて多種多様な技法を包含している形がある、その醸し出す雰囲気は、まづ形式から入る礼節表現の魅力と相俟あはって彼らの憧れの的となる。彼らの目には日本人、東洋人独特の所作、雰囲気を持ったまさに神秘の武技と映った。

単なる競技でない「礼節を重視する人間修行の道としての武道空手」、この概念なくして全世界へのこれだけの空手の普及はあり得ず、オリンピック入りは不可能であった。この事実の重さを我々ははつきりと確認し、先人に対する礼と感謝の念を片時も忘れてはならない。

オリンピックスポーツとしての空手

スポーツには定義がない。遊戯、気晴らし、運動競技という解釈はあるが、前項の武道憲章に見られるような定義はなく、多国籍共通語として確立されている。しかし、その価

値を十分に表現するものとして以下のオリンピック憲章がある。

「オリンピックの根本原則」

1 オリンピズムは肉体と意志と精神の全ての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。

オリンピックはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を追求するものである。その生き方は努力する喜び、よい模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。

2 オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。」

今日、リオデジャネイロオリンピックがブラジル国家財政に与えた諸問題、2020東京大会の諸施設に絡む問題、ドーピングに関する国家的関与疑惑、過度の商業主義等々、オリンピックに関わる否定的話題には事欠かない。オリンピックは、まさに多くの根本的問題を内包している。それでもなお、リオの感動は世界中を動かし、わが国のメダリスト

パレードには、80万人が祝福に参集した。沿道を埋める人々の表情を見るにつけ、オリンピッククススポーツ以外に、これほど多くの人々に健全で清々しい感動を与えられるものがあるだろうか、と思わざるを得ない。理屈を超えてスポーツが持つ素晴らしい特質である。

オリンピックはまさに、多様なスポーツで結びつけられた平和運動である。

でありながら、やはり冒頭の「空手が武道から単なるスポーツに墮さないように」という言葉には看過し得ないものがある。ここにはスポーツというものが「外国人の、いや日本人を含めスポーツ競技中、前後に見せる言動に相手への礼節を欠く場面が多い」、「勝利至上主義・商業主義に墮している」、「つまり「人格形成、清廉というイメージの対極にある」、という前提がおかれているように感じる。この感想を完全否定するつもりはない。しかし、物事は常に相対的なものであり、この世の中で絶対などというものはない、という観点に立つてスポーツの良さ、価値についてお話ししたい。

オリンピック憲章を再読いただきたい。武道憲章と比べてどちらがより高度な概念、目標を掲げた定義、理念といえるだろうか？ 私には判断できない。というよりも、もし武道憲章の「日本、武士、武道の固有名詞」を塗りつぶしたらオリンピック憲章との区別はつくのだろうか？

残念ながら人格形成、礼節とは程遠い武道の指導者、修行者は今も存在する。多数でないことを祈る。一方、数多くのスポーツ試合で、模範的礼節を尽くすもの、真のフェアプレーに徹するもの、その選手の間性、高潔性を示す感動の場面は数限りない。

そして、世界平和への意識を強調し、目的とすることにおいてスポーツは武道を凌ぐ。

小泉信三元慶應義塾長が「スポーツが与える三つの宝」と題する講演を行っている。

「1 練習は不可能を可能にする…人類の歴史で不可能を可能にしてきたものは発明、発見である。しかしスポーツの世界では厳しく辛い練習を規則正しく辛抱強く継続した者のみが不可能を可能にし、勝利を得

る。この貴重な体験をスポーツが教えてくれる。

2 フェアプレーの精神…どこまでも果敢なる闘士たれ、しかし潔い敗者たれ。"Be a hard fighter and a good loser." 定められたルールの中では勝利を目指して徹底的に戦え。しかし試合が終わったら勝者は敗者を思いやり、敗者は潔く敗北を認め勝者を讃えよ。この精神、態度はスポーツ体験を通じて最も自然にしかり深く学ぶことができる。

3 友を得る…共に辛い練習に耐えた友、共に戦った仲間は格別の連帯を生み生涯の友となる。或いは趣味方となつて鎗を削つた相手との交遊、これらの友はみな得難い人生の宝物である。」

オリンピック憲章とは異なる語り口で、スポーツの価値をこれほど簡潔に分かりやすく、しかも人生の機微に触れる形で説いたスポーツ論を私は知らない。一生を懸けた武道の修行、尋常の勝負という言葉に置き換えれば1、2は武道そのものかもしれない。しかし武道は、3を宝物としては強調していない。スポーツ、そして武道も、その魅

力に取りつかれた者が行つてますます光り輝き、そして、それを行う者、指導する者の人生観、考え方に支えられて真に価値あるものになり得る。その価値を貶めるものも人間である。スポーツマン、武道家という人間がいてのスポーツであり、武道である。

「空手競技」「スポーツとしての空手」はこの半世紀、全世界に驚異的な普及を遂げた。

空手が競技化、スポーツ化したのではない。「空手が本来内包していたスポーツ性」が見事に開花したのである。競技ルールはこれまで多くの変遷を遂げ、今後も変わるであろう。しかし、健全スポーツ競技としての地位を確立しつつある空手競技が、衰退・消滅することは想像できず、そうしてはならない。

WKFの目指すオリンピック空手

空手はなぜ3回も連続してショートリストに残りながら、オリンピック種目になれなかつたのか？ 様々な解釈があるが、最大の理由は、流派の存在による真の統括団体の結成

遅延、WKF認定後もあつた流派を含む空手団体の乱立である。IOCは「空手はスポーツとして組織的統一がとれていない」と解釈した。東洋の一隅から全世界に広まつた空手、それは前述どおり多くの先人の涙ぐましい努力によるものである。

伝承技法（流派）を尊重し、これに全人生を傾注した先人のおかげで確立された世界各国各地の組織、これが後にオリンピックスポーツ入りを遅らせた、という誠に皮肉な結果を招来した。IOCとの交渉当事者として最も複雑で悩ましかったのは、このことであつた。しかし、時は多くの方々の理解を促し、様々な問題を解決した。地の利を得て、2020年、WKF第1回世界選手権（1970年）が開催された武道の聖地、日本武道館に実に半世紀の時を経てオリンピックスポーツとして登場することとなつた。何かに導かれたかのような帰還である。

IOCは、追加種目選考に当たつて「男女共同参画」「若者の人気度」「世界規模の普及度」を条件としてきた。空手はもちろんこれらの条件を完全に満たしている。選手の安

全、健康に配慮した種目であることはもちろん大前提である。WKFは、これに加えてIOCに

対し、以下を強調した。
「1 全世界の空手修行者は5歳から90歳まで、健康法、武道・武技鍛錬の楽しみ、スポーツ競技等々その目的に応じて汗を流している。空手は武道という生まれながらの性格を強烈に保持しつつ、Elite Sport（真に選りすぐりのトップレベルの選手による競技）としてのオリンピック種目入りを目指している。」

2 一方、競技種目の側面から見た場合、形と組手は欠かせない。形は多くの伝統的技法を色濃く残し、空手が多彩な技法で構成された驚くべき武技であることを表現しており、単なる打撃競技を超えた存在であることを観る者に認識させる。組手は、安全面に配慮した限定された技法を駆使しての自由攻防である。形と組手2種目が相俟つて、空手は伝統武道の本質を保持したオリンピックスポーツとなりうる。

3 日本武道館という聖地は、当然2020年のオリンピック後も素晴らしいレガシーとして存続するが、

そこで行われる形、組手競技そのものが伝統武道に立脚したスポーツとして、将来のオリンピックに対して『無形の資産』となる」

WKFの主張は、TOCOG、IOCに完全に理解された。これからは、我々空手関係者がこれを実践してゆかねばならない。アンチドーピング活動、クリーンアスリートの保護にもますます積極的に取り組む必要がある。そして、「礼と節」の

心を形式から規定し、その器に魂を注入しつつ、形競技で伝統を堅持し、組手競技でさらなる技法の新領域を開発する。アスリート、競技場を取り巻く環境諸条件の不断の改善にも取り組んでゆかねばならない。我々はこれを「伝統と革新」

「Tradition & Innovation」と呼ぶ。
伝統と革新の完璧な調和こそ、WKFが目指す「オリンピック空手」である。

「空手が武道から単なるスポーツに墮することのないように」という声に対する私の答えは、我々関係者がオリンピック空手をさらに磨き上げる決意を持ち続ける限り、「そのご心配には及びません」である。

奈藏稔久講師による講義の後、質疑応答となった。

◇ Q デイビッド・マクフォール(アメリカ柔道)



「今後、試合後に礼をせずにガッツポーズをするなど、無礼な人が増えるのではないか」

A 奈藏講師

「192の国と地域に愛好家がいるので、礼の徹底をルールの中に書かないといけません。コーチに対して、無礼な態度を取ると、試合後でも反則になるなど、伝え続けないといけないと思います」

Q モハメッド・シハブ(シリア・空手道)



「私は松濤館空手を習っていますが、オリンピックにはどの流派でも出られ

るのでしょいか」

A 奈藏講師

「全ての空手家に対して門戸を開いております。オリンピックのルールがあり、このルールに従って参加する限りは、どの流派の人でも出場できます。たとえ、いま連盟に加盟していない人であっても、申請して所属してもらえば、どなたでも挑戦できます」

Q サン・マイ(アメリカ・合気道)



「昔と今の空手は何が違いますか」

A 奈藏講師

「武道は本来の価値を一旦否定するものの、それを失うことなく高次の次元に到達しています。剣道は元々、真剣による殺し合いでした。現在、真剣の鍔迫り合いと竹刀の鍔競り合いが同じだと思っている人はいないでしょう。剣道は長い歴史を経て、真剣での殺し合いから木刀の鍛錬や形を経て、竹刀競技の中に命を懸けて戦った時と同じ精神状態を

移入して、より良いものに到達させました。空手も同様です」

Q ロベルト・ダウ(カナダ・空手道)



「どこの町道場でもメダルばかりを狙うようになるのではないか」

A 奈藏講師

「大会の自由組手で使われるテクニックは、空手が本来持っている技術体系の1割くらいです。ケガがないようにルール上、そうしています。試合に勝つことばかりを考えると、他の9割は無駄ということになって指導しなくなります。そうすると、長い年月の間に空手の伝統的技法が失われます。一生懸命に汗を流し、大会に命をかける素晴らしさがありますが、伝統的な技法を教える町道場は大切だと思っています」

Q フィリップ・ゴライピン(空手道)

「今後予定されている宣伝活動など詳しく教えてください」



講義が終わると大きな拍手が送られた

A 奈藏講師

「WKFがIOCに認定された日に近い6月17日に、世界空手DAYを設けております。ミュンヘンの目標き通りに世界中の空手家2000名を集め、IOCのバッハ会長の前で演武を披露する計画があります」

◇ 続いて、実技研修となった。大道場で、各道の実技講師による指導の下、参加者は自身が専門とする武道の稽古を行って切磋琢磨した。

2日目 (3月4日)

午前8時30分より、第一研修室にて、本セミナーのコーディネーター田中守氏たなかまもる(国際武道大学教授)を司会者に、「武道への想い」について各参加者が発表を行った。発表は、フィリップ・ゴ氏、清水延子氏、パトリック・ハイン氏、ランディー・チャネル氏の順で行われた。



▽フィリップ・ゴ氏(フィリピン・空手道)

「私は、武道を、社会的なステイタスを得るため、また護身術を目的として松濤館空手とテコンドー、カリを始めました。日本に移住してから、武道をより深めたいと思い、埼玉県にある拓心観道場で古伝空手の初段を取得しました。稽古を再開して、空手道への理解と関心がさらに深まりました。

日本の武道は、肉体的だけでなく、

精神的にも鍛えられます。母国では、空手を1年で辞める人がいますが、日本では生涯稽古に励む人が多いです。相手への敬意の気持ち、道場内だけでなく、日常生活にまで影響を及ぼします。武の道には終わりがなく、奥深さがあります。その点で、日本文化はとても優れていると感じます。

武道の稽古に励むことにより、謙虚な心、心身を保ち、人を尊敬し合い、暴力を振るわないという人間形成の道を学びました」



▽清水延子氏しみずのぶこ(日本無雙直傳英信流居合術)

「私は、32歳の時に武道への扉を開きました。何事にも挑戦する勇氣と決断、そして実行する情熱があれば、夢は叶えられると学びました。私は指導者に恵まれました。今もその出会いに生かされています。薙刀術、礼法学、居合術の3人の慈愛あふれる宗家より、その直門とし

て、武徳修養と技を直接伝承されました。この上ない師弟関係と言えます。また、そのお陰で大きく飛躍でき、海外進出の実現を果たしました。海外のセミナーで薙刀術を指導する機会を得ると、真剣操術を心得る清水延子に変身いたします。充実感を感じ、資格(昇段審査)への意欲につながって、少女のように胸がワクワクする気持ちになります。しかし、いつの世も妬みや厭味、圧力と葛藤の連続であり、失望感を感じることもありました。

この道を歩み始めて43年。長く続けなければ、物事の良し悪しはわかりません。本日お集まりの皆様、合言葉は「武道で日本を知ろう」です。武の究極は「文武両道」にあります。武の道に挑戦しようとする、私の「今この瞬間を生きる姿勢」を示せたらと思っています」



▽パトリック・ハイン氏パトリック・ハイン(ルクセンブルク・空手道)

「私は松濤館空手を40歳から始めて、10年になります。空手を始めたきっかけは、道場が近くにあり、子どもに教えたいと思ったからです。空手は特別な道具をそろえることなく、誰でもできます。また、一生続けられます。

道場の先生は、相手を力で倒すのではなく、自制心、心をコントロールし、すばやさを意識することで倒せると教えてくれました。先生が強調することは、人を傷つけないこ



参加者発表の様子

と、また、礼が大事であるということです。礼は自然と身につきます。また、稽古をする中で自分の中心を知ることができ、バランス感覚を鍛えることができます。

私にとつての空手道は、より良い人間になるための道を開いてくれるものです。自分の内側を常に見る、生活にも導入できるものです。武道は、自分との闘いです。自分を見つめ、闘いの中で自分について知ることが多くあり、必ず良いことに繋がっていきます。これを武道から学べたことはすごく幸せなことです。もし学んでいなければ、私はただの攻撃的な人間だったかもしれません」

▽ランディ・チャネル氏(カナダ)剣道ほか



「第一回から毎年参加しています。カナダのYMCAで、はじめて柔道に出会いました。その後、他国で武道を学びましたが、納得のいかない点が多かったです。しかし、日本の

武道はすべて道が付いているのでハッキリしていると思いい、本格的に柔道を始めました。

来日後、侍が行っていた刀を使う武道に興味を持ち、剣道の精神的な面に惹かれて剣道を始めました。来日して半年も経たないうちに先生を見つけて、武道漬けの毎日を過ごしました。そして、第一回目のセミナーに参加しました。参加者はブルー・ス・リーの集まりのようで、緊張感がありました。今日までずっと参加してきましたが、全てのことにおいて、技の熟練よりも、継続することの方が難しいことだと思えます。

多くの人は、私が行っている茶道と武道が正反対のものではないかと考えるとします。しかし、茶道の勉強をしていくと、武道と茶道には共通点が多いことが分かります。茶道では、水差しを持って入室しますが、これは剣道中段の構えや弓道の最初の構えと似ています。

茶道の先生から『力が入りすぎ。力を抜きなさい』と言われました。同じことを武道の先生にも言われました。パワーがあることは良いことだと思っていました。武道でも茶

道でも力を抜くことが大事。両方習うことで双方に良い影響をもたらしました。

最後に伝えたいことは『和敬清寂』という50年前の言葉です。武道を通じて精神を学び、初心を思い出してください。そして、笑顔を忘れないでください。

武道に引退はありません。道に終わりはないからです。その道から離れることはありません。引退しようと思えるならば、それはそもそもあなたの道ではないのかもしれない。ケガや体調などで稽古ができなくなつたとしても、稽古方法はいつでもあります」

最後に田中守コーディネーターから「世阿弥が書き残した言葉に、『初心忘るべからず』があります。初心を忘れず、これからも武道の修行に励んでください」と結んだ。



田中守コーディネーター



記念撮影 (日本武道館研修センター)

模範演武



柔道



なぎなた



空手道



合気道

休憩を挟み、午前10時45分より、腹巻宏一特別講師（柔道学習塾「紀柔館」代表）による「武道への想い」の講義となった。講義では、和歌山で27年間営んでいる、柔道と勉強の両面を指導する柔道学習塾「紀柔館」のシステムや経験談を通しての「武道への想い」、そして今後の目標が語られた（要旨別掲）。

昼食・記念撮影を挟んで、午後は、講師演武会が行われた。各界を代表する講師の模範演武に、参加者は一挙手一投足を見逃すまいと凝視していた。

その後、各会場にて日頃、専門としない武道に積極的に挑戦する体験武道となった。参加者たちは気合い十分に他武道の稽古に打ち込んでいた。先生方は、参加者の熱意に对应して一層熱のこもった指導にあたり、2時間に及ぶ体験武道で、指導者も参加者も心地よい汗を流した。

◇
夕方からの懇親会では、国際武道大学高見令英学長が「このセミナーは、武道を愛し、極めようという想いを持った参加者の皆さんにとつて、大変貴重な学びの場でありま

す。学ばれたことを今後の学習と修行の糧として、継続されることを期待します」と挨拶し、伊東良主任講師（相撲）が乾杯を行った。参加者たちは、ともに汗を流した稽古仲間と武道談義に花を咲かせた。

3日目（3月5日）

午前8時30分より、木村恭子特別講師（天道流第十七代宗家）による講義「天道流について」が行われた。

天道流の基本となる「一文字の乱」は、最初に習う技である。しかし、容易に到達しえない深遠な内容を含んでいる技で、始祖齋藤判官伝鬼坊が編み出した真髓だと述べた。続いて、天道流兵法の歴史、系譜、武器の形態、序歌の説明があり、最後に、日々の暮らしの中に人格を高め、品位を保つ術として修練することが重要な課題であると締めくくった。

講演後、天道流薙刀術の模範演武が行われ、参加者は多彩な武器による演武に見入っていた。

体験会では、打・薙刀と仕・太刀の2グループに分かれて、「一文字の乱」と「静志岩崩」を行った。参

古武道講義・演武及び体験会



天道流の武器の説明をする木村恭子講師(右)



模範演武



加者は、足の踏み込みや捌き方に四苦八苦しながらも、丁寧な指導を受け、演武披露では、全員で華麗な技を披露した。



実技研修後に昼食を挟み、閉講式となった。閉講式では、カリ・ローソンさん(アメリカ・弓道)に修了証が授与され、主催者として吉川英夫日本武道館振興部長が挨拶をし、全日程を終了した。

■参加者コメント

▽カリ・ローソン(アメリカ・弓道)



「講義も体験武道(銃剣道となぎなた)もとても興味深かったです。普段しない動きで、声もなかなか出せませんでした。弓道は、小笠原流を勉強するうちに始めようと思いましたが、スポーツは苦手ですが、はじめて自分で選んだ運動が弓道です。体の動かし方を知ることができ、『道』であることに価値があります。『道』

の部分になかったら物足りなかったかもしれません」

▽ピトゥーニナ・マリナ(ロシア・合気道)



「自分が学んだことのない武道を稽古できて面白かったです。合気道は、大阪の合気道天神道場に友達と見学に行つて始め、5年間続けています。力に頼らず、女性でもできるところに魅力を感じています」

▽ポール・カルデロン(フランス・空手道)



「空手道は、7年前に親のすすめで始めました。セミナーでは、なぎなたと弓道の体験武道が楽しかったです。武道は、相手への尊敬の心と感謝の気持ちがあることが素晴らしい、今後も続けていきたいです」

腹巻宏一 特別講師

「武道への想い」 講義概要



と座学の両方を指導する」という町道場が増えれば、いずれ、武道と座学の両方を指導するのが町道場」という価値観が生まれるだろう。

○「紀柔館」のシステム

紀柔館には、火曜から土曜まで様々なクラスがある。4歳児から6歳児までの園児クラス、7歳から9歳までの小学生低学年クラス。その他、小学生高学年クラス、小学生勉強クラス、中高一般柔道クラス、中高勉強クラスである。また、曜日によつて園児と小学生低学年など2クラスが交わる時間を設けており、「年上が年下の面倒をみる」という役割を持たせ、ある年齢の塾生に偏らないようにしている。

柔道と勉強の両面が指導できるシステムの特徴は、道場で稽古をする指導者も塾生も「静」の時間を共有できることにある。もつと多くの道場で個々の事情に合わせて、「武道

○最近感じていること

戦後の日本は、経済的に豊かになったが、精神的な豊かさが追いついていないのかもしれない。小さな島国が戦後の復興を果たすために、何事においてもがむしゃらに生きていくしかなかった。そして、スポーツにおいてもその努力の仕方が継承された。それが、少年期における勝利至上主義に陥りやすい原因の一つではないだろうか。

いま家庭環境や学校環境など時代の変化で、人の話が聞けない、自分の思いどおりにならないとすぐキレる、じつとしていられないなど、柔道で心身を鍛える前に、何とかしてやらなければならない子供が増えつつある。

これまでは、武道の稽古により人間の成長が期待できたかもしれないが、これからは武道稽古の「課題の出し方」を工夫する必要がある。具体的には、「指導者の話を聞く時間」、「複数の選択肢から何が正しいと思うかを意思表示する時間」、「問題に対して自分の考えを述べる時間」、「仲間とお互いの技について評価する時間」、「異なる価値観で稽古や勉強に参加している仲間を認める習慣」などを採り入れることだ。

何事も最後までやり抜く信念や実行力、諦めない粘り強さや集中力は、従来の武道の稽古法で養われるかもしれない。しかし、コミュニケーション力の養成に役立つミーティングやパート別グループ練習といったものは、チームスポーツと比べると少ないように思う。これから世界で多様な価値観を持つ人々と協調しながら生きていくには、武道教育の中でも、これまで以上に協調性や寛容性を若者に身につけてほしい。

○今後の目標

日本のスポーツ界では、体罰やセ

クハラ問題等々、改善しなければならぬ課題がたくさんある。その中でも柔道人口の減少問題は、全国の町道場や部活動の存続に関わる、対策を講じなければならない課題である。

2035年、推計で3人に1人が高齢者という超高齢化社会を迎える日本には、高齢者向け柔道プログラムの開発も必要ではないか。この課題に精力的に取り組まれている柔道指導者はまだ少ない。紀柔館では一つの試みとして、「転び方健康教室」というプログラムを、4月からスタートさせる。受け身と体捌きを中心に、呼吸法や筋トレ脳トレの要素を含めた、柔道をベースにした健康運動プログラムの開発である。これから自身のライフワークにしたい。



体験武道・実技研修



少林寺拳法



相撲



弓道



銃剣道



剣道

【特別講師】

奈藏稔久(世界空手連盟事務総長)
腹巻宏一(柔道学習塾「紀柔館」代表)
木村恭子(天道流第十七代宗家)

【主任講師・講師】

柔道 光本健次七段、石井兼輔七

段、大島修次七段、越野忠則七段

剣道 網代忠宏範士八段、井島章

教士八段、丸橋利夫教士八段、

岩切公治教士八段

弓道 窪田史郎範士八段、土佐正

明教士八段

相撲 伊東良五段、西大星三段、

櫻井浩太郎三段

空手道 岡林俊雄教士八段、渡邊

純一錬士七段

合気道 金澤威七段、森智洋六段

少林寺拳法 合田雅彦正範士七

段、村瀬晃啓准範士六段

なぎなた 小野恭子範士、増田桂

子教士

銃剣道 佐藤亨範士八段、小川功

範士八段

【講師助手(天道流薙刀術)】

小野由紀子、福田啓子、小嶋弘美、

近藤圭恵、細井優子、木村有里、
アレキサンダー・ベネット

【講師演武会演武者】

石崎信太郎(柔道)、高橋奈津美・
宮崎文花(なぎなた)

【コーディネーター】

田中守(国際武道大学教授)

【通訳者】

アレキサンダー・ベネット(ニュ
ージーランド・関西大学教授)

シヨーン・オコネル(ニュージー
ランド・南山大学准教授)

ブルース・フラナガン(オースト
リア・開智国際大学講師)

ソリドール・マーマ(ドイツ・
津田塾大学専任講師)

津田塾大学専任講師



好評発売中

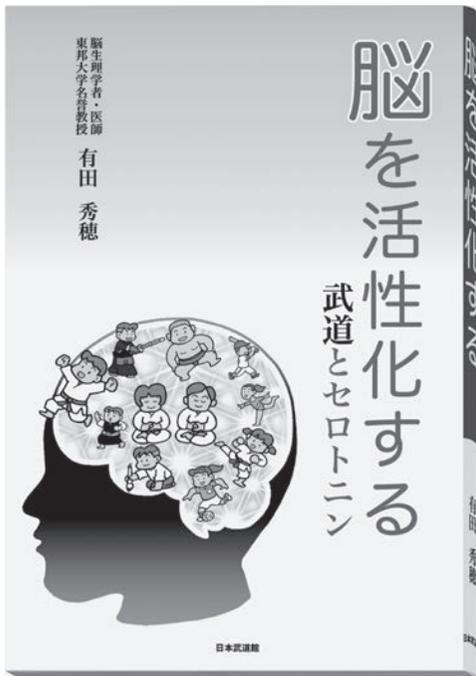
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)
昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」
日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

<p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ！ TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)
(B5判・上製・DVD付・336頁)



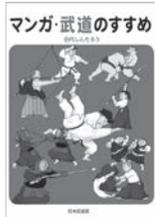
武士道に学ぶ

皇學館大学教授
菅野 覚明 著
(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家
小笠原清忠 著
(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著
(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者
吉野 喜信 著
(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター
辻 秀一 著
(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授
大保木輝雄 著
(四六判・上製・220頁)

日本武道館武道学園創立 50 周年記念 記念演武会、記念式典・祝賀会



記念式典・鏡開き式 (左から阿達議員、自井理事長、松永会長、三藤理事・事務局長、加藤講師)

武道学園創立 50 周年を盛大に祝う

公益財団法人日本武道館武道学園が、平成28年度で創立50周年を迎えた。これを記念して3月11日、記念演武会が日本武道館小道場で、記念式典・祝賀会がホテルメトロポリタンエドモント（東京都・千代田区）で行われた。演武会には156名が、祝賀会には210名が集まり、それぞれ盛大に開催された。

武道学園は、昭和41年（1966）4月に日本武道館内に開校し、柔道と剣道の教養科・師範科が設けられた。昭和44年には、東京都の各種学校認可を取得。その後、武道学園とは別に、杖道、なぎなた、少林寺拳法、合気道、空手道の各教室が順番に開設された。

平成3年に25周年を迎えると運営についての見直しが行なわれた。その結果、各種学校を返上し、任意団体として、柔道、剣道、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、杖道の7種目の、一般の部・少年の部の2部制で再出発し、現在に至っている。

そして平成28年度、武道学園は創立50周年を迎えた。これを記念して、講師と生徒による記念演武会、記念

祝賀会が開催された。

記念演武会

演武会当日は好天に恵まれ、会場には演武者や元講師・元生徒が次々と集まり、午後2時30分の開会前には、小道場の通路までいっぱいとなった。

●開会式 開会に先立ち、2011年の東日本大震災の被災者の冥福を祈り、来場者全員で黙祷を捧げた。黙祷が終わると、三藤芳生日本武道館理事・事務局長が開会を宣言し、国歌斉唱が行われた。

次に学園長である松永光日本武道館会長が挨拶に立ち、「日頃から武道の普及振興のため、大変なご努力をされている皆様方に感謝申し上げます。武道学園は、昭和41年に武道指導者の養成を主眼として開校されました。当初は、柔道と剣道に師範科と教養科が設けられ、第1期生として52名が入学しました。今日までの武道学園の通算在籍者は、1万を数えるまでになります。生徒の皆様は先輩方の教えを守り、武道に勤しみ、心身を鍛えていただきたいと思えます。今後とも武道界の発展のため



柔道・講道館護身術



剣道・日本剣道形



空手道・瓦割り



杖道・単独基本

めに頑張ってください」と述べた。講師と来賓の元講師の紹介がなされ、開会式は終了した。その後、演武に移った。

●演武 演武は柔道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、杖道、空手道、剣道の順で行われた。

柔道では、生徒が受身や投技、一斉に乱取を行った後、講師による講道館護身術が披露された。

合気道では、少年の部・一般の部生徒の基本技、高段者演武、講師による指導者演武が披露された。

少林寺拳法は、法形披露・単独演武・親子演武・男女組演武を講師と生徒全員で行った。続いて運用法、最後に講師と参加拳士全員による団体演武と単独演武が披露された。

なぎなたでは、団体基本、各部の打突、打ち返し、掛かり稽古、続いてリズムなぎなたが行われた。

杖道は、単独基本、全日本剣道連盟杖道制定形、神道夢想流杖道形を演武した。

空手道では、はじめに講師の指揮で、基本技・団体形を全員で披露。続いて基本組手、最後に講師による試し割り（四方割り・瓦割り）が披

露された。

剣道では、生徒による日本剣道形、基本稽古（切り返し、打ち込み）が行われた。

修練の成果を遺憾なく発揮した演武や、講師により披露される洗練された技に、観覧者からは大きな拍手が送られた。

●閉会式 閉会式では、平成19年度から平成28年度までの10年間にわたって皆勤した合気道一般の部・吉野英樹氏の特別表彰を行い、白井日出男日本武道館理事長より表彰状が手渡された。その後、白井理事長より、「例年よりも一際力のこもった素晴らしい演武でした。皆様は、今後先生方のご指導の下で、さらに心身をしっかりと鍛えていただきたいと思えます。武道学園がさらに発展するように、お祈り申し上げます」と閉会の辞を述べた。



特別表彰を受ける吉野英樹氏



少林寺拳法・単独演武



なぎなた・団体基本



剣道・剣道基本稽古



合気道・指導者演武



少林寺拳法・団体演武



柔道・投技



杖道・全日本剣道連盟杖道形



空手道・四方割り



合気道・少年の部演武



なぎなた・各部の打突

記念式典・祝賀会

午後5時からは、ホテルメトロポリタンエドモントに会場を移して、記念式典・祝賀会が行われた。

●開会 三藤日本武道館理事・事務局長が開会を宣言し、松永会長が「武道精神こそ日本を逞しく伸ばしていく原動力であると思います。皆様方どうぞ武道関係者として今後とも武道精神を大事にして、各方面でしっかり頑張っていたいただきたいと思いません。皆様方のご健勝・ご活躍を祈念いたします」と挨拶した。

●祝辞・挨拶 次に阿達雅志氏（参



松永光日本武道館会長・武道学園長



白井日出男日本武道館理事長

議院議員・武道学園生徒）が来賓祝辞として「武道学園50年の歴史の中で、私は武道学園の剣道の生徒として9年間を過ごしました。

2020年東京オリンピックにおいて、空手道が正式種目となり、世界で日本武道が非常に注目されています。日本武道館の事業である日本武道代表団の海外派遣は、議員の中でも話が出ています。武道学園が50周年という節目を超えて、ますます発展し、世界に日本の武道を発信していけるよう、皆さんと一緒に頑張ります」と祝辞を述べた。

講師代表の挨拶は、加藤浩二剣道



三藤芳生理事・事務局長



阿達雅志参議院議員

講師が行った。「50周年という記念

の中で、講師代表として挨拶をさせていただきますことに非常に喜びを感じています。近年、勝利至上主義に流れやすい中、武道学園が人間教育としての武道の指導を子どもたちに徹底していることは、非常に喜ばしいことです。子どもから壮年までの老若男女が、一緒に道場で鍛え上げられるというのは、武道しかないのではないのでしょうか」

●鏡開き式・乾杯 続いて、武道学園のさらなる発展と参加者の健康と幸福を祈念して、鏡開き式が執り行われた。

白井理事長が「武道学園50周年演武会、式典・祝賀会に大勢の皆様方にご参加をいただき、盛大に開催できました。武道学園のますますの発展と今日ご来会の皆様方のご健勝・ご多幸を心からお祈り申し上げます」と述べて乾杯の発声をし、出席



加藤浩二剣道講師

者全員で祝杯をあげた。

出席者は、種目の枠を越えて武道の稽古に励む仲間同士会話を弾ませたり、元講師や元生徒との再会を喜び、和やかに談笑した。

●閉会 約1時間の歓談の後、三藤理事・事務局長が「本日ご列席をいただいた最高齢の先生は、なぎなたの山下秀子先生で、ご年齢は93歳です。また、剣道の岡村忠典先生、空手道の瀬戸口廣之先生をはじめ、錚々たる大先生方にたくさんご列席をいただきました。また現職の先生方、生徒の皆さんのお陰で素晴らしい演武会と記念式典・祝賀会を実施することができました。改めて御礼申し上げます」と挨拶をして、全員で万歳を三唱し、盛会の裡に閉会となった。

日本武道館武道学園創立50周年の記念誌は、7月に刊行される予定である。



好評発売中

絵と文 中村麻美 (なかむらまみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村麻美 (なかむらまみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立高宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひよどり越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹―母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子齋王―別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 川中島の大蛇
- 十五 中島の一戦―謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎―米百俵の精神
- 二十二 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后―千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇と東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山―海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春―誉れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村―大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

編集・発行 公益財団法人日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 まどろろ!

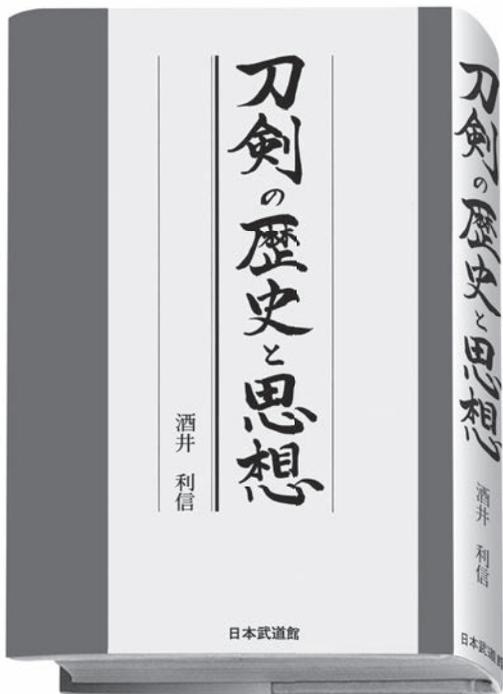
TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

◎好評発売中

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円＋税



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	〓 稽古照今
序章	探求の旅をはじめににあたって
第二章	刀剣の歴史
第三章	刀剣思想の源流
第一節	古代中国の宝剣伝説 太阿の劍
第二節	干将莫耶の宝剣伝説
第三節	高祖の斬蛇劍
第四節	道教と劍
第五節	古代朝鮮の刀剣思想
第二章	神話的イメージの形成
第一節	神話的世界の形成と劍神の誕生
第二節	天より降る劍 節靈劍
第三節	天地を繋ぐ劍 草薙劍
第三章	信仰のなかの刀剣思想
第一節	祀る劍 祀られる劍
第二節	辟邪の呪劍
第三節	うけいの呪術と劍
第四節	修験道と劍
第四章	三世における刀剣思想
第一節	三種の神器の不思議
第二節	『平家物語』にみる三種の神器
第三節	『太平記』が語る草薙劍像
第五章	近世劍術における刀剣思想
第一節	劍術伝書に語られる日本神話
第二節	新當流にみる靈劍の技術
第三節	示現流にみる心の利劍
第四節	近世劍術における刀剣思想の展開
第六章	近現代における刀剣思想
第一節	近代以降の刀剣思想
第二節	古代と現代を繋ぐ刀剣
第三節	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第39回全国高等学校柔道選手権大会

桐蔭学園（神奈川）が
12年ぶり、2回目の優勝



男子団体決勝・大将戦＝関根（手前・桐蔭学園）が勝利。桐蔭学園が優勝に輝く

第39回全国高等学校柔道選手権大会は3月19日（個人戦）・20日（団体戦）に日本武道館で開催された。

男子団体戦では、桐蔭学園（神奈川）が大成（愛知）との接戦を制して、12年ぶりに2回目の優勝を飾った。女子団体戦では、夙川学院（兵庫）が大成（愛知）を破り、初優勝に輝いた。

男子個人戦無差別では、開星（島根）の松村颯祐が優勝。女子個人戦52kg級では夙川学院（兵庫）の阿部詩が登場し、貫禄の優勝となった。

団体戦（20日）

■男子

52チームによるトーナメント方式。試合時間は3分（決勝は4分）、各チーム5名の体重無差別による勝ち抜き試合により、競われた。

決勝は、12年ぶりの優勝を狙う桐蔭学園（神奈川）と、4回戦で昨年優勝の日体荏原を破った大成（愛知）との試合となった。

先鋒戦、桐蔭・賀持と大成・三輪の対戦では、賀持が左相四つの組手争いから引手のみで放った内股が有

効となり、勝利した。

桐蔭・賀持対大成・藤鷹戦、左組の相四つから賀持は大内刈を仕掛けるが、藤鷹は身体を振り、これを防ぐ。今度は藤鷹が逃げ腰となった賀持に対して内股を放つ。藤鷹は賀持を跳ね上げ、巻き込みながら一本を決めた。勝負はタイにもどる。

桐蔭・村尾対大成・藤鷹戦では、開始早々、村尾の小内刈が有効となる。その後も、村尾が足技で攻勢をかけ、藤鷹は必死にそれを防ぐ。藤鷹が崩れたタイミングで、村尾は左足で仕掛けた大外刈を引手のみで一本とし、勝利を収めた。

次いで桐蔭・村尾の相手は大成・大西。大西は小外掛を繰り出し、これが技有となる。しかし村尾は、ケンカ四つから大内刈を放ち、前に押し込みながら一本を奪って、逆転勝ち。村尾は2人抜きを果たした。

続く桐蔭・村尾の対戦相手は大成・弓削。村尾は左組から大外刈で有効を収め、3人抜きを達成。桐蔭学園は、優勝に王手をかけた。

ここで大将の大成・東部が登場。東部は前日の個人戦無差別で3位入賞を果たしている。組み際、東部が

放った払巻込は技有となる。スタミナ切れの村尾から、再び払巻込で技有を収め、合技一本で勝利。桐蔭学園の優勝を阻む。

次ぐ桐蔭・千野根戦では、はじめ



男子団体決勝(桐蔭・村尾と大成・藤鷹の試合)
=村尾(左)は大外刈で一

に千野根が有効を奪ってリードするも後半、千野根の浅い払腰に合わせ、東部は裏投で一本を決めて2人抜きを果たした。

続いて小兵の桐蔭・湯本には抱分



男子団体決勝(桐蔭・村尾と大成・東部の試合)
=東部(左)の1回目の払巻込



男子団体決勝(桐蔭・村尾と大成・大西の試合)
=村尾(左)が大内刈を決める



男子団体決勝(桐蔭・千野根と大成・東部の試合)
=東部(手前)の裏投が決まる

を決めて、東部も3人抜きを成し遂げる。大成は勝ち数で桐蔭学園に並び、勝負は大将戦へともつれた。

大将戦は個人戦無差別準優勝の桐蔭・関根対大成・東部。2人は前日の個人戦無差別準決勝で対戦しており、関根が指導差で勝利している。関根が内股を繰り出すと、それを東部が狙い、裏投を仕掛ける。しかし関根はそれを凌ぐ。一進一退の攻防は続き、徐々にスタミナで不利な東部は指導を重ねていく。終了間際、東部が渾身の払腰を放つが一歩及ばず、僅差により関根が勝利した。

桐蔭は大将戦までもつれた大成との接戦を制し、12年ぶり2回目の優勝を飾った。

桐蔭学園(神奈川) 1人残り 大成(愛知)

賀持喜道 有 効 三輪魁星
賀持喜道 内 股 藤鷹裕大
村尾三四郎 内 股 藤鷹裕大
村尾三四郎 大内刈 大西陸斗
村尾三四郎 有 効 弓削凜月
村尾三四郎 合 技 東部直希
千野根有我 裏 投 東部直希
湯本祥真 抱 分 東部直希
関根聖隆 僅 差 東部直希

◎優勝II桐蔭学園・高松正裕監督
「初戦からうまうまいかず、苦しい試合が続いていました。選手たちももう簡単に勝ち上がれないと肌で感じたとと思います。一つ一つがきつい試合ではあるけれども、全員で最後の最後まであきらめずに行こうと選手に呼びかけました。」

大将の関根が、私に近い立場で選手たちにアドバイスをし、チームをうまくまとめてくれました。決勝では、大成・東部の前にかく選手を残して、最後は関根で勝負するというシナリオでした。しかし今朝、関根は指も腫れ、膝の痛みを訴え、「自分は東部と戦う自信がないです」と伝えてきました。その言葉から今日の団体戦が始まったのですが、この団体戦を通して、自分が戦い、そしてチームをまとめるなければいけないと感じたのだと思います。いい結果を残すことができました」

◎優勝II桐蔭学園・関根聖隆選手

「自分がキャプテンですし、高松監督にもまわってくるぞ」と言われていましたので、気持ちの準備はできていました。後は勝つだけだと思

■女子

48チームによるトーナメント方式、試合時間は3分（決勝は4分）、各チーム3名の体重別による点取り試合により、競われた。

決勝は、初優勝を目指す夙川学院（兵庫）と昨年準優勝の大成（愛知）との対戦となった。

先鋒戦は、夙川・阿部と大成・小林の対決。阿部は前日の女子個人戦



女子団体決勝・大将戦＝吉峰（夙川学院・左）が守りきる

52kg級で優勝を飾っており、団体戦でも先鋒として2回戦からの4試合で全勝する活躍をみせている。団体決勝でも勢いそのままに、阿部は足技、担技と積極的な攻めを見せ、小林に攻め入る隙を与えない。守りに徹する小林に指導が与えられていく。残り52秒で小林は指導4を受け、反則負となった。阿部が勝利し、夙川は優勝に王手をかける。

中堅戦、夙川・岡田と大成・山室の対戦は、両者が技によるポイントを取れずに引分となり、勝負の行方は大将戦へと持ち越された。

注目の大将戦は、夙川・吉峰と大成・和田のカード。前半、吉峰に指導が与えられる。吉峰は指導2を受けるが、そのまま試合は終了。和田が僅差により優勢勝。勝数同等で、内容差により夙川学園が初優勝に輝いた。

夙川学院（兵庫）①ー①大成（愛知）

阿部 詩○反則負 小林未奈

岡田 萌×引 分×山室未咲

吉峰美母絵 僅 差◎和田梨乃子

◎優勝Ⅱ夙川学院・松本純一郎監督

「決勝は、しんどい試合となりましたが、どうにかゴールまでたどり着くことができました。選手たちは一生懸命戦ってくれました。その結果が優勝につながったと思います」

◎優勝Ⅱ夙川学院・阿部詩選手

「決勝は、やるしかない」と臨みました。団体戦はみんなで勝つことができるため、優勝も格別に嬉しいですね」

個人戦（19日）

男女とも、体重別4階級と無差別の5部門、トーナメント方式により、試合時間は3分間、時間内に勝負が決しない場合は時間無制限のGS（ゴールデンスコア）により、競われた。

■男子

▽60kg級

決勝は、昨年覇者の市川龍之介（千葉・習志野）と福田大悟（滋賀・比叡山）の対戦となった。終了間際、市川の払巻込が技有となり、市川は2連覇を達成した。



男子60kg級決勝＝市川（手前）の払巻込

▽66kg級

決勝に残ったのは、西願寺哲平(埼玉・埼玉栄)と片山航希(愛知・大成)。西願寺が指導差2により勝利した。

▽73kg級

勝部翔(京都・京都学園)と村上優哉(兵庫・神戸国際大学附属)の決勝では、試合後半、勝部が引手を持った瞬間に背負投を決め、優勝を果たした。

▽81kg級

決勝は、亀谷嗣温(大阪・近畿大



男子73kg級決勝Ⅱ勝部(下)が背負投で勝利

学附属)と奥田将人(京都・京都学

園)の顔合わせ。互いに技によるポイントがなく指導2となり、GSに移る。攻勢に出たのは亀谷。足技から連絡した払巻込が有効となり、勝利を収めた。

▽無差別

決勝は、1年生で体重140kgの松村颯祐(島根・開星)と100kgの関根聖隆(神奈川・桐蔭学園)。前半、ケンカ四つで組み合うも、技が出ない両者。互いに指導1を受ける。中盤になると、松村がペースをつかみ内



男子81kg級決勝Ⅱ亀谷(下)の払巻込が有効

股などを繰り出し、関根は指導2を受ける。試合は指導差により松村が勝利し、優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ松村颯祐選手(開星)

「優勝を狙ってこの大会に臨みました。決勝では、相手にポイントを取られた時も、焦つたらダメになるぞ」と自分に言い聞かせ、落ち着いて相手の動きを見るように心がけました。小学生以来の日本一を味わうことができました。春・夏と連覇できるように、日々の練習を重ねていきたいです」



男子無差別決勝Ⅱ松村(右)が攻める

■女子

▽48kg級

準々決勝まですべて一本勝で勝ち上った安部風花(東京・国士館)と高校総体準優勝の和田君華(愛知・大成)の決勝では、安部が指導差により勝利。優勝を手にした。

▽52kg級

2月のグランプリ・デュッセルドルフ大会で史上最年少優勝を果たした高校1年の阿部詩(兵庫・夙川学院)が登場。技によるポイントを取れず、決勝まで勝ち上がった。対す



女子48kg級決勝Ⅱ安部(手前)の背負投

るは児玉風香（愛媛・新田）。準決勝では高校総体優勝の瀧川萌（滋賀・比叡山）を降している。開始早々、組手争いから距離を詰める阿部。組み際の袖釣込腰が鮮やかに決まり、一本勝となった。

◎優勝Ⅱ阿部詩選手（夙川学院）

「優勝できてホッとしています。今日は、決勝までポイントが取れていなくて、ダメだなと思っていた部分もありましたが、決勝で一本を決め、気持ちが悪れました。4月の全日本選抜柔道体重別選手権大会が本番。今日は通過点だと思っています」

▽57kg級

決勝は、昨年の高校総体準優勝の香川瑞希（広島・広島皆実）と、昨年準優勝の若藤唯（神奈川・桐蔭学園）との対決となった。序盤から香川が攻勢をかけ、主導権を握る。試合終了間際、香川の繰り出した小外刈が技有となり、そのまま抑え込む。合技一本で、香川が初優勝を果たした。

▽63kg級

結城彩乃（山梨・富士学苑）と浦明澄（岡山・創志学園）の1年生同士による決勝となった。試合は、互

いに指導を一つ受けたまま、GSにもつれ込む。相手の奥襟を掴み、投技を繰り出そうとする結城。対して、積極的に攻めない浦。その浦に2つ目の指導が入り、試合は終了。結城が1年生での優勝を飾った。

▽無差別

素根輝（福岡・南筑）と昨年準優勝の和田梨乃子（愛知・大成）の決勝戦となった。前半の組手争いでは、素根が前へと圧力をかける。後半、素根がタイミングを合わせ、大内刈から抑込へと移行。素根は合技一本で、女子無差別を制した。



女子52kg級決勝Ⅱ阿部（右）の袖釣込腰



女子57kg級決勝Ⅱ香川（上）の小外刈



無差別決勝Ⅱ素根（上）が大内刈で制す



女子団体優勝＝夙川学院



男子団体優勝＝桐蔭学園



【大会結果】

■男子団体Ⅱ ①桐蔭学園(神奈川県)、
②大成(愛知)、③延岡学園(宮
崎)、崇徳(広島)

■女子団体Ⅱ ①夙川学院(兵庫)、

②大成(愛知)、③南筑(福岡)、
鎮西敬愛学園敬愛(福岡)

■男子個人

▽60kg級Ⅱ ①市川龍之介(千葉・習
志野)、②福田大悟(滋賀・比叡山)、
③顕徳大晴(兵庫・神港学園神港)、
中内快(高知・高知追手前)

▽66kg級Ⅱ ①西願寺哲平(埼玉・埼
玉栄)、②片山航希(愛知・大成)、
③若狭智也(石川・鶴米)、古川
巧(佐賀・佐賀北)

▽73kg級Ⅱ ①勝部翔(京都・京都学
園)、②村上優哉(兵庫・神戸国
際大学附属)、③松山葵偉(広島・
近畿大学附属広島)、大野晃生(大
阪・東海大学附属仰星)

▽81kg級Ⅱ ①亀谷嗣温(大阪・近畿
大学附属)、②奥田将人(京都・
京都学園)、③板東虎ノ輔(千葉・
木更津総合)、賀持喜道(神奈川・
桐蔭学園)

▽無差別Ⅱ ①松村颯祐(島根・開

星)、②関根聖隆(神奈川・桐蔭
学園)、③高木一石(静岡・湖西)、
東部直希(愛知・大成)

■女子個人

▽48kg級Ⅱ ①安部風花(東京・国士
館)、②和田君華(愛知・大成)、
③溝口愛歌(埼玉・埼玉栄)、芳
田真(滋賀・比叡山)

▽52kg級Ⅱ ①阿部詩(兵庫・夙川学
園)、②兒玉風香(愛媛・新田)、
③三浦百香(神奈川・三浦学苑)、
瀧川萌(滋賀・比叡山)

▽57kg級Ⅱ ①香川瑞希(広島・広島
皆実)、②若藤唯(神奈川・桐蔭
学園)、③古賀ひより(岡山・創
志学園)、明石ひかる(東京・渋
谷教育学園渋谷)

▽63kg級Ⅱ ①結城彩乃(山梨・富士
学苑)、②浦明澄(岡山・創志学
園)、③杵渕萌(静岡・東海大学
附属静岡翔洋)、嘉重春樺(大阪・
東大阪大学敬愛)

▽無差別Ⅱ ①素根輝(福岡・南筑)、
②和田梨乃子(愛知・大成)、③
田中伶奈(岐阜・鶯谷)、松田美
悠(富山・小杉)

悠(富山・小杉)

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎(柔道)、高野佐三郎(剣道)、阿波研造(弓道)、
双葉山(相撲)、船越義珍(空手道)、植芝盛平(合気道)、宗道臣(少林寺拳法)、
園部秀雄と三田村千代(なぎなた)、鶴沢尚信(銃剣道)

マンガ・武道の偉人たち



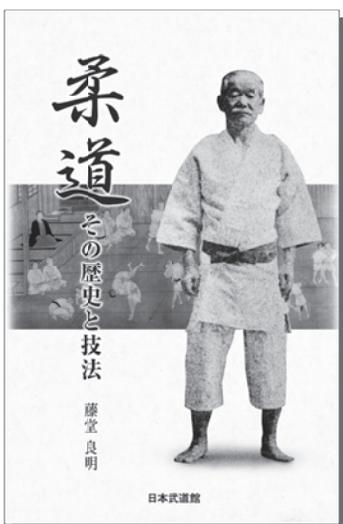
ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
http://www.nipponbudokan.or.jp インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索!

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p>
<p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>	

<p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページ http://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ! TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--

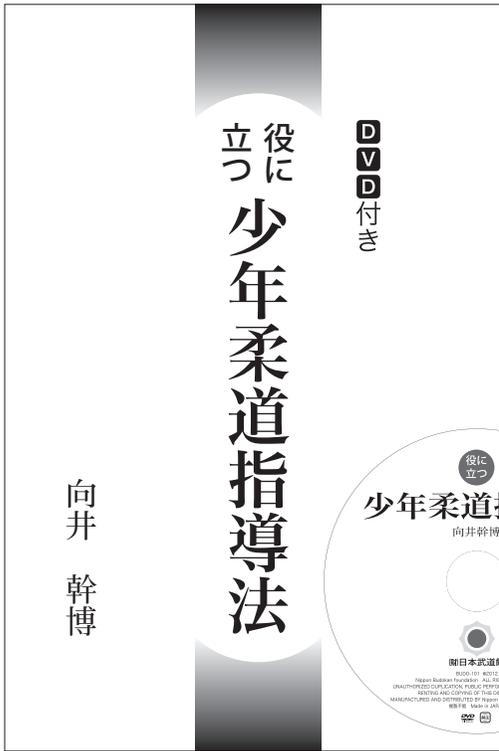
好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著



少年柔道指導法

収録時間170分を超える
解説DVD付属！



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

第1部 解説編	第9章 少年柔道の未来のために
第一章 少年柔道は柔道指導の原点	第二章 実技編
第二章 基本動作の指導	第一章 礼法の指導
第三章 技の指導	第二章 受け身の指導
第四章 教育の中の柔道	第三章 基本動作の指導
第五章 指導の工夫	第四章 トレーニング法の指導
第六章 少年規定の変遷と問題点	第五章 柔道の練習法
第七章 柔道の安全指導	第六章 投技の指導
第八章 東日本大震災への講道館の対応	第七章 固技の指導

編集・発行 日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。